

資料3

他都市事例

1 主な他都市事例

事業・自治体	目的・内容
おかえりプロジェクト (愛媛県宇和島市)	進学や就職で出て行った若者が帰って来る、また、宇和島にいる若い世代がこれからも地元で活躍できる仕組みづくりを目指すことを目的に、プロジェクトを実施。
郷土愛プロジェクト (上伊那広域連合)	8市町村で構成された上伊那広域連合が主体となって、関係団体と連携しながら、「つなぐ」をキーワードにキャリア教育に関する事業を実施。
デジタル帰宅部 (福井県坂井市)	坂井市にゆかりのある高校生を募り、ゆるいコミュニティのなかでまちへの誇りを養ってもらうことを目的に、高校生と市職員・市民がデジタル空間にある仮想の坂井市で、イベント企画や観光PRなどのまちづくり活動を行う。
ふるさと松山学 (愛媛県松山市)	平成21年度、松山市の教職員施策提案から生まれ、児童、生徒にふるさと松山のよさを伝えること目的に、教職員等で教材を作成し、小中学校の授業で活用している。正岡子規の出身地であり、俳句を織り交ぜた内容。
八女ふる里学 (福岡県八女市)	八女市の自然や文化・歴史・産業などをまとめた「八女ふる里学」を平成27年度より、全小中学校の3年生以上を対象に年8時間以上の授業を実施している。
JK課 (福井県鯖江市)	地元のJK(女子高生)たちが中心となって、自由にアイデアを出しあい、さまざまな市民・団体や地元企業、大学、地域メディアなどと連携・協力しながら、自分たちのまちを楽しむ企画や活動を実施。
Z世代課 (福岡県北九州市)	若者による政策への提言及び参画の機会創出に向けた調査及び支援を行うため、2024年度に創設。アイデアコンテストやワークショップのほか、Z世代課パートナーズ(政策・事業へのアドバイスや、会議体の委員参画)の委嘱を行う。 ²

2 おかえりプロジェクト（愛媛県宇和島市）

(1) 所管部署・実施時期

企画課 移住定住推進室・2018年度～

(2) 目的

進学や就職で出て行った若者が帰って来る、また、宇和島にいる若い世代がこれからも地元で活躍できる仕組みづくりを目指す。

(3) 事業内容

・誇れるものポケットブック「ガイナ」作成プロジェクト

(2024年度予算 150千円)

宇和島の全国に誇れるものや魅力をポケットブックにして、高校3年生に配布。

進学・就職先など新天地で、「自分の生まれ育ったまち」を紹介するときなどのネタ本としても活用。



出典: 宇和島市ホームページ

<https://www.city.uwajima.ehime.jp/index2.html>

・「未来つながる宇和島」配信・サポータープロジェクト(2024年度予算 3,626千円)

高校を卒業し市外へ出て行く若者に対し、市内の最新情報・就職情報・コラム・動画など、SNS(X、Facebook、Instagram、YouTube、LINE)を活用し定期的に配信。

また、その保護者や地元の友人に対しても、同じ情報を発信し、親子間や友人間のつながりも強化しながら、二方向からのアプローチを図る。

フォロワー数 X : 750、Facebook : 1,078、Instagram : 2,554

YouTubeチャンネル登録者数 : 115、LINE友だち数 : 1,827

2 おかえりプロジェクト（愛媛県宇和島市）

- ・ケーブルテレビを活用した「学校自慢CM大賞」プロジェクト(2024年度予算 2,587千円)
小・中学生が学校や地域の魅力を掘り起こし、それをCMにすることを通じて、地域への愛着を持ち続けることに繋げる。
- ・高校生まちづくり課プロジェクト ※2022年度終了
「若者が地域に残れる、帰れるまちづくり」をテーマに、高校生が提案したアイデアをまちづくりに生かすプロジェクト。
参加する高校生は毎年変わるが、テーマは前年を引き継いでいる。
 - 1年目:理想の町を市長へ提言
 - 2年目:1年目を踏まえて実現に向けた検討(テーマパークをつくる)
 - 3年目以降:テーマパークの商品開発3年目以降、コロナ禍で主だった活動ができなかったが、地元事業者の協力で、宇和島市の特産品を使った防災缶詰をつくり、一定の成果を得た。

(4) その他の取組

- ・宇和島市大学生等生活応援ふるさと小包
(2024年度予算 18,193千円)
市外に進学した大学生等(約1,200人)へ特産品を年間3回送付。
送付1回分の例:新米、卵かけ醤油、豚味噌



出典: 宇和島市ホームページ <https://www.city.uwajima.ehime.jp/index2.html>

Instagram未来つながる宇和島 https://www.instagram.com/mirai_uwajima/

3 郷土愛プロジェクト（上伊那広域連合）

(1) 所管部署・実施時期

上伊那広域連合(※) 地域振興課・2014年度～

(※)長野県伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村の
8市町村で構成

構成団体: 県経営者協会、商工会議所、教育委員会、校長会、信州大学、PTA連合会 等

(2) 目的

- ・「人として大切なこと(人間力)」を根底にしたキャリア教育の支援を行う。(学力、職業観、勤労観の醸成に限らず)
- ・地域で育まれた子どもたちが、社会的・職業的に自立し、育んでくれた地域を愛し、地域を誇りにもち、地域に貢献したいと思えるような次世代育成活動を行う。
- ・次世代育成(キャリア教育)を通して、地域活性化と地域の未来づくりに貢献する。

(3) 事業内容

「地域に学び 地域をつなぐ 地域のでふるさとの未来をつくる」思いのもと、上伊那8市町村の産学官組織が構成団体となり、従来の枠組みを超えて協働しながら、次世代育成や地域づくりを実践。郷土愛プロジェクトが発足して10年(前身を含めると20年)が経過したが、実際に人口減少やUターンに対しては、効果を検証することが大変難しい事業である。しかし、少しずつ成果が見えてきている。(地元就職につながる事例等)

広域連合内に事務局があり、関連事業は広域連合の外郭団体である郷土愛プロジェクトが主催だが、イベントごとに構成団体による実行委員会を組織したり、学校主催の授業に協力したりしている。

3 郷土愛プロジェクト（上伊那広域連合）

(4) 事業例

・キャリア教育産学官交流会

多様な参加者（産学官、地域、保護者、学生等）が、自分やふるさとの未来についてフラットに意見・情報交換。上伊那の市町村にて、開催会場を持ち回りで毎年開催。



・未来ラボ

継続的に学び合う場、地域のリーダー育成、持続可能な地域づくりのために未来を研究しつくり出す場を目的として、テーマに対する意見交流を実施。地域で活動する方々のつながりや具体的なアクションが生まれるとともに、若い世代の参加も見られ、世代を超えた交流が実現。



写真出典：
郷土愛プロジェクト
キャリア教育情報サイト
<https://inadani-kyodoai.jp/>

3 郷土愛プロジェクト（上伊那広域連合）

・キャリアフェス

上伊那地域の企業などで活躍している卒業生等が、企業紹介やこの地域で働くことについて、各ブースで高校生に説明。実際の就職に結び付いたケースもあり、社名や業種で選択しやすい高校生に、各社が求めている人物像、職種を明確にしてもらい、広い視野や1つの会社には多くの職種があることを伝える。



・子どもの未来応援団

次世代育成や地域づくりにかかわる実践を行っている学校、地域団体に助成金を交付することで、子どもたちや地域住民が、希望と目標をもって主体的、積極的な活動が広がり深まるよう支援。



写真出典：
郷土愛プロジェクト
キャリア教育情報サイト
<https://inadani-kyodoai.jp/>